



2か月ごとに国立環境研究所（NIES）の災害環境研究の“いま”をお伝えします。

2016年もよろしくお祈りします！

今年から、いよいよ国立環境研究所福島支部 in 環境創造センターが始動します。今後も地元のニーズに応えながら、よりいっそう被災地に根ざした研究活動に取り組んでまいります。本年もどうぞよろしくお祈りいたします。

お知らせ

H28.3月 環境創造センター出前講座 -震災から5年、身近な環境は今- を開催（下記コラム参照）



最近の動向

~H27.12月 [BookletシリーズVol.1](#)を発行（英語版の研究紹介）

[福島県相馬地域の地域将来シナリオ適用に関する研究論文](#)を公表（五味馨ほか）

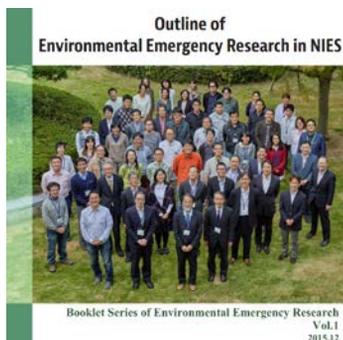
[分散型エネルギーシステムの設計方法に関する研究論文](#)を公表（戸川卓哉ほか）

[植物を用いた土壌中の放射性セシウム浄化に関する研究論文](#)を公表（玉置雅紀ほか）

[海の流動が放射性セシウムの海底堆積分布に与える影響に関する研究論文](#)を公表（東博紀ほか）

H28.1月 災害環境研究セミナー「福島における地域社会の今・これから」を開催

話題提供：佐藤健太氏（飯館村商工会青年部部長、福島県商工会青年部連合会理事）



Bookletシリーズ vol.1



地域エネルギーシステムの設計
（戸川研究員の論文より）



飯館村の現状について語る佐藤氏
（災害環境研究セミナー）

環境創造センター出前講座@南相馬市のお知らせ

本講座では、環境創造センターの紹介とともに、福島県・日本原子力研究開発機構・国立環境研究所が現在取り組んでいる研究内容について、一般の方むけにわかりやすく説明します。ぜひお越しください。

日時：2016年3月5日(日) 13:00～15:30 (12:30 受付開始)

場所：環境放射線センター大会議室(南相馬市)

プログラムの詳細は国立環境研究所のホームページをご覧ください。



国立環境研究所が2015年2月に南相馬市で開催した出前講座の様子

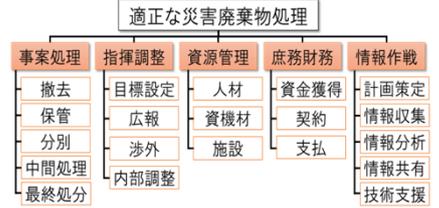
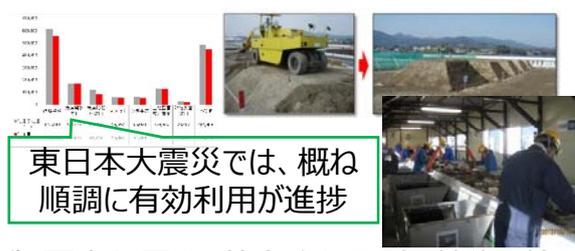
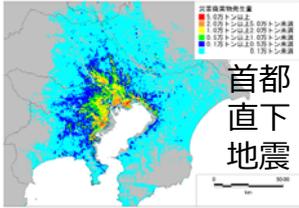
国立環境研究所では、福島支部(三春町)で一緒に働いてくださるスタッフの方を募集しています。

詳しくは[国立環境研究所 採用案内](#)のページをご覧ください。

PG3-災害環境マネジメント研究プログラムの紹介

～将来の災害に備え、安全で安心な社会をつくれます～

① 災害廃棄物の「マネジメント」について研究しています



① 将来の災害で発生
するごみ量を推定

② 再生利用や、効率的な選別の技術を検討

③ 災害廃棄物の処理に必要な
仕事の内容を分析

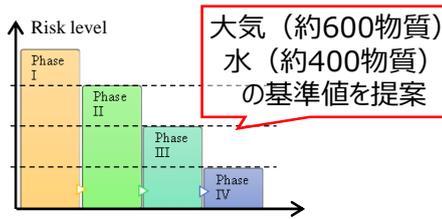
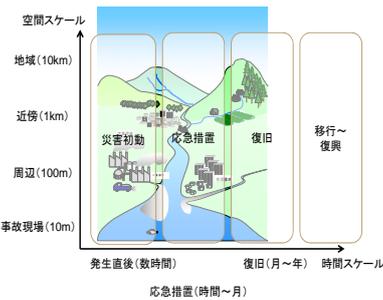


災害廃棄物の
「マネジメント」
ってなに？



災害が起きると、壊れた家財やがれきなどの災害廃棄物が大量に出ます。これをすばやく、環境にやさしく処理するため、人材・施設・機材・お金・情報などをうまく使い、先を見すえた戦略的な対応を取ることを指します。

② 災害時のリスク管理の在り方を考えます



④ 災害の規模と状況に応じた
段階的リスク管理

⑤ 常総市洪水被災地域における緊急
環境調査



なぜ普段と異なる
リスク管理の方法
が必要なの？



災害時には有害な物質が環境中に大量に放出される可能性があります。そのような状況では、迅速な測定を行ったり、平常時に戻るまでの段階的な目標を設定することが、災害対応において重要となります。

③ 人材育成や、人・組織の関係づくりの方法を研究しています



⑥ 実際の災害を模した図上演習手
法の開発

⑦ 参加者の「気づき」を促すワー
クショップ型研修手法の開発

⑧ 災害廃棄物の処理に役立つ情報を
まとめたホームページを開設



人材育成や関係
づくりがなぜ重要な
の？



事前に準備していた計画やマニュアルだけでは災害に対応できません。臨機応変さ、柔軟さが必要になります。そのためには、普段から、災害環境マネジメントに必要な能力を身に付けたり、災害時に協力しあえるような関係性をつくる必要があります。